

母親の子どもに対するアタッチメントの二重過程モデル： 自閉症スペクトラム特性の高い子どもと養育者のアタッチメント形成 (中間報告)

京都大学大学院教育学研究科 高松 礼奈

Dual Process Model of Mother-Child Attachment: Comparisons of Mothers of a High Autistic Child and the Comparison Group

Graduate School of Education, Kyoto University, TAKAMATSU, Reina

要約

本調査は、母子のアタッチメント形成において感情と認知の二重過程プロセスを仮定し、子どもをかわいいと思う感情と母性意識が母親の子どもに対するアタッチメントに与える影響を検討した。二段階サンプリング法を用い、母子のアタッチメントが形成されづらい自閉傾向の高い子どもの母親 ($n = 64$) と対照の子どもの母親 ($n = 72$) を対象とした質問紙調査を行った。その結果、子どもの低共感 (他者の情動への注意, 向社会的行動) は、母親が子どもをかわいいと感じづらいことを予測していた。さらに、子どもをかわいいと思う感情と母性意識 (肯定的・否定的) は、母親の子どもに対するアタッチメントを有意に予測していた。このことから、母子のアタッチメント形成には、子ども側の要因と母親側の要因がそれぞれ影響し、感情と認知の二重過程モデルによって予測されることが示された。

【キー・ワード】 母子のアタッチメント, 共感性, かわいい感情, 自閉症スペクトラム特性

Abstract

The present research tested the dual-process model of mother-child attachment that proposes intuitive/emotional and cognitive processes independently predicting maternal attachment with their child. Using the stratified sampling method, mothers of a high autistic child ($n = 64$) and mothers of a low autistic child ($n = 72$) participated in the study. The results showed that high autistic children were rated lower on two empathy scores (Attention to the Others' Feelings, Prosocial Actions) as measured by the EmQue (Empathy Questionnaire). Furthermore, the child's low empathy was associated with the mother's reduced *kawaii* (cuteness) emotion toward babies and children, which, along with positive and negative self-perception as a mother, predicted lower maternal attachment with her child. These results suggest that both emotional/intuitive and cognitive processes are involved in forming and maintaining a mother's attachment with her child.

【Key words】 Mother-child attachment, Empathy, Kawaii emotion, Autistic traits

問題と目的

現在、人間の養育行動に関する心理学の研究では、生得的な欲求に焦点が当てられており、認知の役割は見過ごされがちである。人間は幼稚な身体的特徴を持つ対象（例：赤ちゃん）を知覚すると、養護が必要と認識して養育欲求を抱き、養育に関連した行動を取る（Glocker et al., 2009; Nittono et al., 2012）。一方で、養育者が育児の中で親である自分をどう捉えるか（認知）は見過ごされている。親である自己意識はさまざまな要因——子どもが親からの働きかけにどう応答するか、ストレスを含む環境要因——によって影響される（Davis & Carter, 2018）。既存モデルは、生得的と仮定される養育欲求が機能しなくなる原因を説明していない。また、子どもへのかわいい感情は親側の個人特性とされ（Takamatsu, 2020）、先行する要因が分かっていない。

子どもの安定したアタッチメントは、養育者の応答性と一貫的に温かい養育が規定因である。そのため、養護の担い手である養育者が子どもに対するアタッチメントをいかに形成し、維持するのか調べることは心身ともに健全な子どもの発達に寄与することになる。そこで本研究では、養育者が子どもに抱くアタッチメントにおいて感情と認知の役割を明らかにするため、感情と認知の二重過程モデル（図 1）を検証する。また、自分と他者の経験が共有されないために親子のコミュニケーションや絆形成に課題のある自閉傾向の高い子どもの母親と同年齢の子どもの母親と比較し、共感性の役割を調べる。

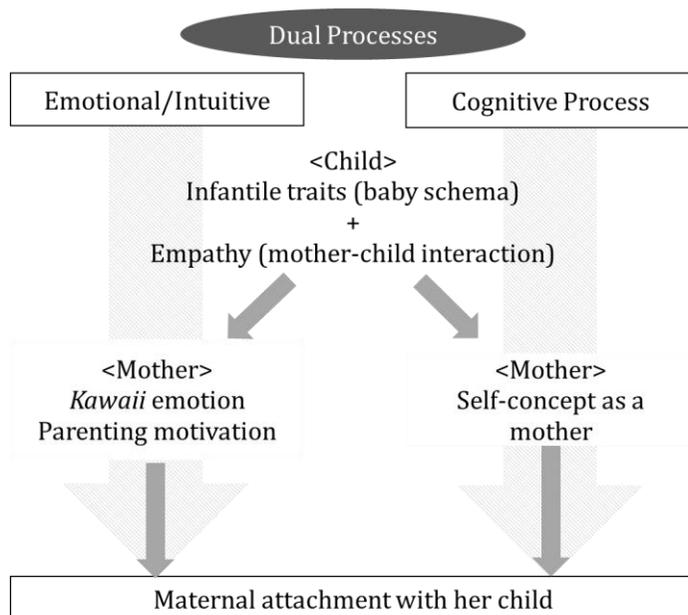


図 1 Dual Process Model of Mother-Child Attachment

本研究の目的と仮説

本研究は、自閉症スペクトラム特性の高い子どもの養育者と同年齢の子どもを育児中の養育者を対象に調査を行い、幼児期の低共感性が親子関係の形成に与える影響を調べることを目的とした。仮説は以下のとおりである。

仮説 1: 自閉症スペクトラム特性の高い子どもは、対照の子どもと比較し、母親によって評定される共感性の EmQue 得点が低い EmQue (日本語版 Empathy Questionnaire: Takamatsu et al., under review) は幼児期の共感性の 3 要素 (情動伝染, 他者の情動への注意, 向社会的行動) を測定する養育者が評定する尺度である。共感性の発達モデル (Hoffman, 1987) と一致し, 発達と共に他者の情動への注意と向社会的行動の得点は高くなり, 情動伝染は変わらない (Rieffe et al., 2010)。自閉特性の高い子どもについては, 幼児期に発達する他者の情動への注意と向社会的行動が, 対照群の子どもよりも低く, 情動伝染については有意差のみられないことが予測される。

仮説 2: 子どもの低共感性は、母親の子どもに対するかわいい感情の低さを予測する 母子関係の形成において, 母親と子どもは互いに影響を与え, 相互的なコミュニケーションを通して絆が深まっていく。しかし, 自閉傾向の高い子どもは母親からの働きかけに対して反応が低く, 母親は子どもとの関わりから肯定的な経験を得ることが難しく, 子どもをかわいいと感じにくいことが予想される。

仮説 3: 子どもに対するかわいい感情、母性意識とソーシャルサポートは、母親の子どもに対する愛着を予測する 母親の子どもに対するアタッチメントを予測する感情と認知の二重過程プロセスを検証するために, 感情プロセスはかわいい感情, 認知プロセスは母親としての意識を調べた。また, 育児には周囲からのサポートが大きく影響することから (湯沢ら, 2007), 今回は探索的にソーシャルサポートも予測子に含めた。

方 法

2 段階サンプリング法を用いて調査を行った。

予備調査

未就学児を育児中の成人女性 1,317 名 (平均年齢 = 35.39 歳, $SD = 5.03$) を対象に予備調査を実施した。アンケートでは, 幼児の自閉傾向を測定する 14 項目 (大六, 2006) に回答を求めた。回答は「はい」「少し」「いいえ」で求めた。

本調査

予備調査のスクリーニングテストが 10 点よりも高い点数の回答者 (高群) と 0 点～2 点の回答者 (低群) にアンケート調査参加募集のメッセージを送信した。重複データを除外し, 136 名 (平均年齢 35.74 歳: $SD = 5.25$) をデータ分析対象とした。表 1 に参加者の子どもの属性を示す。

表 1 Child Characteristics by High and Low Autistic Groups

	High Austistic (<i>n</i> = 64)		Low Austistic (<i>n</i> = 72)	
	boys	girls	boys	girls
<i>n</i>	36	28	37	35
<i>M</i> _{age}	4.34		4.47	

Note. As a screening test, a Japanese measure developed from the ASQ has been administered to 1,317 mothers. Mothers who rated their child higher than 10 were categorized into the high autistic group, and mothers who rated between 0 and 1 were categorized into the low autistic group.

調査項目

子どもの共感性 日本語版幼児の共感性質問紙 (Empathy Questionnaire; Rieffe et al., 2010; Takamatsu et al., under review) は、1 歳～5 歳までの共感性の 3 側面 (情動伝染, 他者の情動に対する注意, 向社会的行動) を測定する 20 項目の養育者が評定する尺度である。教示では過去 2 ヶ月のお子さんの行動について振り返り, 各文の行動がどのくらいの頻度でみられたか 5 段階評定で回答を求めた (1: あなたが分かる範囲において全くなかった～5: いつもあった)。

母親の共感性 多次的共感性尺度 (登張, 2003) の下位尺度 2 つ (共感的関心, 視点取得) を用い, 回答者 (母親) の共感性を測定した。

かわいい感情 かわいい反応尺度 (Takamatsu, 2018) により, 赤ちゃんに対するかわいい感情反応を測定した。

母性意識 母性意識尺度 (大日向, 1988) を用い, 母親であることの肯定的な意識 (例: 「母親になったことで, 人間的に成長できた」) と否定的な意識 (例: 「子どもを育てることが負担に感じられる」) について回答を求めた。

ソーシャルサポート ソーシャルサポート尺度 (岩佐ら, 2007) の文言を調整し, 子育て中の母親が知覚する周囲からのソーシャルサポートを 3 項目で測定した。

母親の子どもに対するアタッチメント 母親の愛着尺度日本語版 (中島, 2001) を用い, 母親の子どもに対するアタッチメント (例: 「子どもと一緒に過ごすことを楽しみにしている」) を測定した。

結果

自閉傾向高群と低群の比較

表 2 に自閉傾向高群と低群を比較した結果, 平均値, 標準偏差 (*SD*) とクロンバック α を示す。自閉傾向高群の子どもは, 低群の子どもと比較すると, EmQue の下位尺度の中で, 他者の情動に対する注意と向社会的行動が有意に低く母親によって評定されていた。一方, 情動伝染は自閉傾向の高い子どもの方が, 高く評定されていた。よって仮説 1 は支持された。

表 2 Group Differences in Study Variables

	α	High Autistic (n = 64)	Low Autistic (n = 72)	t (df)	p	d	95%CI
EmQue (Empathy-Child)							
Emotional contagion	.71	8.79	6.60	37.12 (132)	<.001	0.91	1.373, 3.013
Attention to Others' Feelings	.72	13.66	15.26	2.52 (134)	.013	0.43	-2.870, -.345
Prosocial Behavior	.84	9.48	10.76	2.18 (134)	.031	0.37	-2.441, -.118
Empathy-Mother							
Empathic Concern	.88	42.84	48.90	5.04 (134)	<.001	0.86	-8.437, -3.681
Personal Distress	.74	18.63	17.11	2.30 (134)	.023	0.39	.658, .212
<i>Kawaii</i> emotion	.86	23.06	30.06	9.22 (134)	<.001	1.58	-8.492, -5.494
Positive Self-Perception as a Mother	.89	15.17	18.13	4.24 (134)	<.001	0.73	-4.330, -1.577
Negative Self-Perception as a Mother	.80	15.83	12.83	4.57 (134)	<.001	0.78	1.698, 4.292
Social Support	.93	11.94	16.72	7.64 (134)	<.001	1.31	-6.023, -3.546
Mother's Attachment to Her Child	.95	16.69	22.17	-6.46 (134)	<.001	1.10	-7.158, -3.801

子どもに対するかわいい感情を予測する変数の検討

目的変数を母親の子どもに対するかわいい感情とした重回帰分析を行い、子どもの共感性を予測子としたモデルを検討した。その結果、情動伝染は低いかわいい感情を予測していた $\beta = -.43$, $SE = .162$, $p < .001$, 95% CI [-.574, -.276]。他者の情動に対する注意は、高いかわいい感情を予測していた $\beta = .34$, $SE = .124$, $p < .001$, 95% CI [.173, .498]。向社会的行動の効果は、有意傾向であった $\beta = .16$, $SE = .135$, $p = .059$, 95% CI [-.006, .322]。母親の子どもに対するかわいい感情を予測するモデルにおける子どもの共感性の寄与率は、 $R^2_{adjusted} = .28$ であった。よって仮説 2 は支持された。

子どもに対するアタッチメントを予測するモデルの検討

目的変数を子どもに対するアタッチメントとした階層的重回帰分析を行い、感情・直感と認知プロセスの二重モデルを検討した。最終モデルでは、かわいい感情 ($\beta = .25$, $SE = .092$, $p = .007$, 95% CI [.069, .432])、肯定的な母性意識 ($\beta = .27$, $SE = .092$, $p = .004$, 95% CI [.067, .346])、否定的な母性意識 ($\beta = -.21$, $SE = .094$, $p = .003$, 95% CI [-.3443, -.074]) とソーシャルサポート ($\beta = .24$, $SE = .113$, $p = .006$, 95% CI [.070, .416]) が有意な予測子であった $R^2_{adjusted} = .53$, $F(5, 130) = 30.85$, $p < .001$ 。よって仮説 3 は支持された。

考 察

この研究では、子どもに対する愛着は、直感的かつ情動的プロセス（かわいい感情）と認知プロセス（母性意識）によって影響されると仮定し、二重プロセスモデルを検証した。また、親子関係の形成に寄与する子ども側の要因として共感性に着目し、自閉症スペクトラム特性の高い子どもと低い子ども（対照群）の比較を通し、共感性が母親の子どもに対する愛着に与える影響を検討した。さらに、知覚されたソーシャルサポートもモデルに含めて環境要因の影響も検討した。調査の結果、母親の子どもに対するかわいい感情は、子どもの共感性によって予測されていた。また、母親の子どもに対するかわいい感情と母親としての意識は、それぞれ独自に子どもに対するアタッチメントを予測しており、二重過程プロセスモデルが支持された。さらに、自閉症高群の母親は、自閉症低群の母親と比較

すると、子育てで必要なサポートを周りから受けていると感じていないことが示された。以上の結果は、共感性は我々と他者を情緒的に結びつけるという仮定を支持し、母子アタッチメントの形成には子どもの共感性、母親の子どもに対するかわいい感情と母性意識が影響することを示した。

今後の予定

本研究は縦断デザインで、調査 1 の 1 年後に追加調査を行う。

引用文献

- 大六 一志・長崎 勤・園山 繁樹・宮本 信也・野呂 文行・多田 昌代 (2006). 5 歳児軽度発達障害スクリーニング質問表作成のための予備的研究 心身障害学研究, *30*, 11–23.
- Davis, N. O., & Carter, A. S. (2008). Parenting stress in mothers and fathers of toddlers with autism spectrum disorders: Associations with child characteristics. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, *38*, 1278–1291.
- Glocker, M. L., Langleben, D. D., Ruparel, K., Loughhead, J. W., Gur, R. C., & Sachser, N. (2009). Baby schema in infant induces cuteness perception and motivation for caretaking in adults. *Ethology*, *115*, 257–263.
- Hoffman, M. L. (1987). The contribution of empathy to justice and moral judgment. In Eisenberg, N., and Strayer, J. (Eds.), *Empathy and its development*. University of Cambridge Press, Cambridge, U.K.
- 岩佐 一・権藤 恭介・増井 幸恵, 他. (2007). 日本語版「ソーシャルサポート尺度」の信頼性ならびに妥当性：中高者を対象とした検討 厚生の指標, *54*, 26–33.
- 中島 登美子 (2001). 母親の愛着尺度日本語版の信頼性・妥当性の検討 日本看護科学学会誌, *21*, 1–8.
- Nittono, H., Fukushima, M., Yano, A., & Moriya, H. (2012). The power of kawaii: Viewing cute images promotes a careful behavior and narrows attentional focus. *PLoS One*, *7*, e46362.
- 大日向 雅美 (1988). 母性の研究—その形成と変容の過程：伝統的母性観への反証 川島書店
- Rieffe, C., Ketelaar, L., & Wiefferink, C. H. (2010). Assessing empathy in young children: Construction and validation of an Empathy Questionnaire (EmQue). *Personality and Individual Differences*, *49*, 362–367.
- 杉山 登志郎 (2011). 発達障害のいま 講談社現代新書
- Takamatsu, R. (2020). Measuring affective responses to cuteness and Japanese *kawaii* as a multidimensional construct. *Current Psychology*, *39*, 1362–1374.
- Takamatsu, R., Tsou, Y-T., Kusumi, T., & Rieffe, C. (under review). The Japanese Empathy Questionnaire (EmQue) for preschool children: Psychometric properties and measurement invariance across gender.

母親の子どもに対するアタッチメントの二重過程モデル：自閉症スペクトラム特性の高い子どもと養育者のアタッチメント形成

登張 真稲 (2003). 青年期の共感性の発達：多次的視点による検討 発達心理学研究, 14, 136-148.

湯沢 純子・渡邊 佳明・松永 しのぶ (2007). 自閉症児を育てる母親の子育てに対する気持ちとソーシャルサポートとの関連 昭和女子大生活心理研究所紀要, 10, 119-129.

